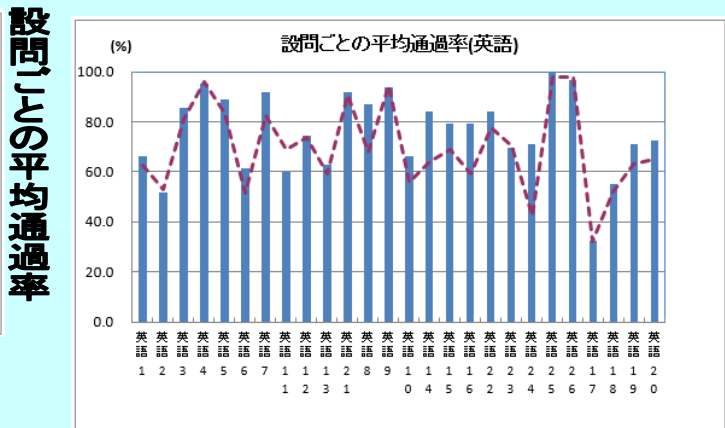
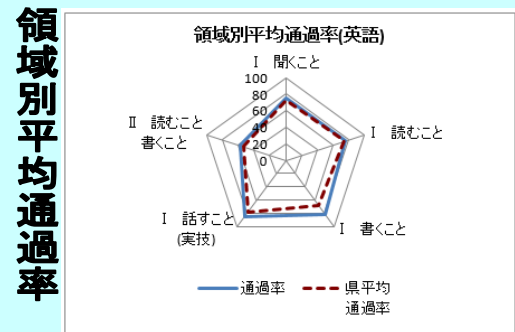


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校75.7%, 県69.6%) **対県比** **108.8%**

本年度の結果について

○英語の結果において、タイプIは79.0%、タイプIIは57.7%の通過率となっている。基礎的基本的な内容は、概ね定着していると考えられるが、一方では、タイプIIの適切な質問を考え英文を書く問題が32.3%と低い。5W1Hを使って必要な情報を得る練習をもう一度復習し、答えから問いを導き出す活動を仕組みながら授業を進めていく必要がある。

○昨年度は、タイプIは77.3%だったが、本年度は、79.0%と若干ではあるが、1.7ポイント上昇した。その反面タイプIIは昨年度72.7%であったのに対し、57.7%と15ポイントも減少し、特に書くこと読むことの領域で、適切な質問を考え、英文を書くことや根拠となる英文の読み取りに対して課題があることがわかった。



重点課題

「基礎・基本」定着状況調査
【課題1】 (書くこと読むこと)
 ▼適切な質問を考え、英文を書くことや根拠となる英文の読み取りに対して課題がある。(17番 通過率 32.3% 県平均 32.2%)
 (18番 通過率 54.8% 県平均 52%)
 疑問文に対する答えを考えさせることはしてきたが、答えから疑問文を考えさせる取り組みをすることがほとんどなかったためこの種の問題になれていないことが考えられる。語順の理解が不十分ため、文のどの位置にどんな情報があるかが理解できていないと考えられる。

【課題2】 (リスニング)
 ▼英語の問いかけに対する適切な応答をすることに課題がある。
 (2番 通過率 51.6% 県平均 52.7%)
 「Can I ~?」に対しては、「can」で答えるというパターンでとらえている生徒が37.1%いる。場の状況を読み取れていないことに課題がある。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査
【課題1】 目標値 (%) 実施後数値 (%)
 ◎通常の授業において、本文の中から1文を選び、その内容を問う疑問文を考えられただけ作文させる。それを全体場で共有することで英語が苦手な生徒をはじめ全体の学びを深められるようにする。
 ◎家庭学習として自分が考えつかなかった質問文と答えの文を繰り返し書かせることで新しい視点での英作文ができるようにする。
 ◎長文の内容理解を英問英答で行う際に、根拠となる文に線を引かせ、発表させることを通して根拠となる英文を読み取る力をつけていく。

【課題2】 目標値 (%) 実施後数値 (%)
 ◎新出の文型を使った短い対話文を暗記させるようにペア活動を仕組む。また、授業の始めに答えを提示し、その答えとなる疑問文を考え対話する活動を仕組むと同時にその対話ができる状況を考えさせることで、適切な応答ができるようにする。
 ◎スキットの単元では、ALTとスキットを演じるパフォーマンステストを実施し、既習事項の活用を増やすことでリスニング力アップを図る。

※今後の改善計画については別紙